

# よくある質問 9

# Q

【質問】

3M™ ベアーハガー™ ペーシエントウォーミングを使用することで熱傷や皮膚損傷のリスクはありますか？

# A

【答え】

皮膚の弱い患者または血流状態が悪い患者の場合、設定温度が低い場合でも発赤や低温熱傷が起こる可能性が考えられます。添付文書に従って温風式加温装置を適切に使用し、熱傷や皮膚損傷のリスクを低減しましょう。



熱傷や皮膚損傷の発生については、温風式加温装置やブランケットだけでなく、患者背景や使用状況を含めてさまざまな要因があり、いくつかの要因が複合していることも考えられます。熱傷疑いの症例あるいは皮膚損傷を確認された場合は、使用環境、使用状況（術式、体位、手術時間、室温、装置の設定温度、定期点検の状況など）、ブランケットの種類や配置、ブランケット異常の有無、患者の特性（皮膚の状態や循環状態）などをできる限り確認してください。

## 温風式加温装置による熱傷や皮膚損傷のリスク要因とその対策

装置による要因	対策
装置の故障や、温度校正が定期的に行われていない場合には、設定温度と実際の加温時の温度がずれた状態で動作することがあります。ずれが高温側となる場合には、熱傷のリスクを高める可能性があります。	定期点検を行いましょう。3M™ ベアーハガー™ ペーシエントウォーミングは、装置の機能と安全性の維持のため、使用時間500時間経過ごと、もしくは12ヶ月ごとの定期点検を推奨しております。
ウォーミングブランケットによる要因	対策
ブランケットの破損等により、温度分布や温風の吹き出しに異常が発生することが考えられます。	ブランケットのご使用前には、差し込み口に破れやゆるみのないこと、ブランケットに穴などの破損がないことをご確認ください。万一、汚れ、破損、ゆがみ、変色等の異常が見られる場合は使用しないでください。
患者による要因	対策
3M™ ベアーハガー™ ペーシエントウォーミングブランケットは、ポリプロピレン不織布・ポリプロピレンフィルムを主材料として構成しています。使用材料の安全性の確認のため、短期間の皮膚への接触を想定して生体適合性評価を実施しておりますが、すべての方に皮膚刺激およびアレルギー反応が起こらないということではありません。患者の体質・健康状態・使用状況等の要因により、発赤などの症状が起こる可能性はございます。特に、皮膚が弱い患者または血流状態が悪い患者の場合、設定温度が低い場合でも発赤や低温熱傷が起こりやすくなったり、わずかな擦れや圧迫などによる機械的刺激、あるいは液体の貯留による皮膚浸軟等によっても皮膚損傷を引き起こす可能性が考えられます。	加温中は患者の体温に加えて、皮膚の状態を10～20分おきにモニターし、不安定な状態がみられた場合は直ちに使用を中止してください。特に、以下の状態にある患者の場合には、熱傷を引き起こすおそれがありますので、絶えず体温および皮膚状態をモニターしてください。 【閉塞性または糖尿病性の著しい末梢血管障害の患者】通常、血流による熱放散によって局所の熱蓄積が防止されていますが、末梢血管に障害がある場合、その機構が保たれないため、熱傷になるおそれがあります。 【低心拍出量の患者】低心拍出の際に、治療として大動脈バルーンパンピング(IABP)等を行った場合、末梢血管が虚血状態になり上記同様なことが考えられるため、注意が必要です。 【血流状態が悪い患者】末梢血管が虚血状態になることが考えられるため、熱傷になるおそれがあります。 【小児の患者】〔その他〕高齢者・肥満の患者も虚血状態を誘発しやすいとされています。なお、熱傷を引き起こすリスクがありますので、大動脈クランプ等で四肢の血管が遮断され、虚血状態になっている部位への使用は禁忌となっております。

### 警告

1. 使用時には必ず指定のエアパッド特定加温装置コントロールユニットのエアーホースをウォーミングブランケットに接続すること。  
[エアーホースのみによる加温は、熱傷を引き起こすため。]
2. ウォーミングブランケットは、孔の開いている側を患者の体表面に向けて使用すること。[熱傷を引き起こすことがあるため。]
3. 加温中は、患者の体にエアーホースが触れないようにすること。[加温中はエアーホース全体が高温になり、接触していると熱傷を引き起こすおそれがあるため。]
4. ウォーミングブランケットと患者の間にシーツを敷かないこと。[加温性能および安全性に影響するため。]
5. 温度上昇警報ランプが表示され、アラームが鳴った場合は、直ちに使用を中止すること。[熱傷を引き起こすおそれがあるため。]
6. 患者の体温・皮膚の状態を10～20分おきにモニターすること。バイタルサインに異常または不安定な状態が見られた場合は、直ちに使用を中止すること。
7. 正常体温に回復したり、バイタルサインが不安定になった場合は、設定温度を下げるか、または使用を中止すること。
8. 患者が下記の状態にある場合は、細心の注意を払い、絶えずモニターすること。[熱傷を引き起こすおそれがあるため。]
  - 閉塞性または糖尿病性の著しい末梢血管障害の患者
  - 低心拍出量の患者
  - 血流状態が悪い患者

### 禁忌・禁止

1. 再使用禁止
2. 大動脈クランプなどで、四肢の血管が遮断され、虚血状態になっている部位には使用しないこと。[熱傷を引き起こすおそれがあるため。]
3. 本品は、適用機種以外には接続しないこと。[熱傷を引き起こすおそれがあるため。また、本来の性能を損なうおそれがあるため。]

Solventum およびそのロゴ、Bair Hugger、ベアーハガーは、Solventum 及びその関連会社の商標です。3M およびそのロゴは 3M およびその関連会社の商標です。その他の商標はそれぞれの権利者の商標です。

2024年7月発行



メディカルサージカル事業部  
<http://go.3M.com/medical-jp/>

3Mのヘルスケア部門はソルベンタムという独立した企業になりました。

Please Recycle. Printed in Japan.  
© Solventum 2024. All Rights Reserved.  
HPM-1162-A(0724)

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

0570-000-470

9:00～17:00/月～金（土日祝年末年始は除く）